孫について

小林まもる

⑩

孫ならば　慈しみにもなろう
満開の桜の木陰で　孫ならば
人目を避けてウンチするなど
生身の水彩で花火のように
老木の樹幹に落書きするなど

だから　老いたサクラよ
わたしの不祥事を誰にも喋るな
わたしがこの根元に消えるまで

もっと酷いことを
わたしの三倍も四倍も
じっとおまえは見てきたはずだ
退化したカラダとはいえ
容赦ないわたしの不始末を
散りくだる花びらよ
その時まで見逃してくれ

⑪

生きたままありがたく
死んでいたい
死んだまま美しく
生きていたい
あり得ないことを願っている
欲張りな祖父がいることを
いつか孫にメールしよう
ためらいながらなお願っている
孫に流れる時間を
一瞬とどめるのは詩だ
「自分はこれからは
　いつ死んでもいいのだ」と
ありがたく思った
初めての出会いの日から